

代理店・メンテナンス業者用

シモタニ製ペレットストーブ メンテナンスマニュアル

この資料は、シモタニ製ペレットストーブの代理店・メンテナンス業者用マニュアルです。

ペレットストーブのメンテナンスを行う際は、必ずこのマニュアルを読み、よく内容を理解してから行ってください。

ご不明な点がございましたら、弊社までご連絡ください。

Shimotani

有限会社シモタニ

〒509-2516 岐阜県下呂市萩原町上村853-1

TEL: 0576-52-3775

FAX: 0576-52-4801 E-mail: info@shimotani.com

メンテナンス概要

メンテナンスが必要です

ペレットストーブは木を燃やします。使用するペレット燃料の品質や使用頻度などにもよりますが、使用するにつれペレットストーブ本体の排気経路や給排気筒に煤が付着し、灰が堆積します。付着した煤や堆積した灰により正常に排気できなくなると、不完全燃焼になるため炎に勢いがなくなったり、通常は無色または白い煙が黒くなります。この状態のまま使用を続けると、ストーブの自体の故障や、最悪の場合、火災を招く恐れがあります。

使用頻度などにもよりますが、動作確認や安全点検を兼ねて、オフシーズンにストーブ本体と給排気筒のメンテナンスが必要です。

メンテナンス時期

メンテナンスはストーブを使い終わる春に行うことをお勧めします。ストーブシーズンは急にやってきます。設置のピーク時期とも重なるため、対応が遅れる場合があります。また、夏の湿気により給排気筒内の煤が固まって給排気筒が外れにくくなります。

春にメンテナンスを行うと、ベストな状態でオフシーズン、ストーブシーズンを迎えることができます。

メンテナンス参考料金

メンテナンスの参考料金は以下の通りです。適正なメンテナンス料金を設定してください。

基本料金(1時間)	10,000円(4月～6月は割引価格)
追加時間(1時間)	2,000円
追加人員(1時間／1人)	3,000円
交通費(1時間)	2,000円
消耗品	別途「部材一覧」参照

設置状況により、ペレットストーブ本体を給排気筒から外すなど1人での作業が困難な場合があります。事前に設置状況をよく確認してください。

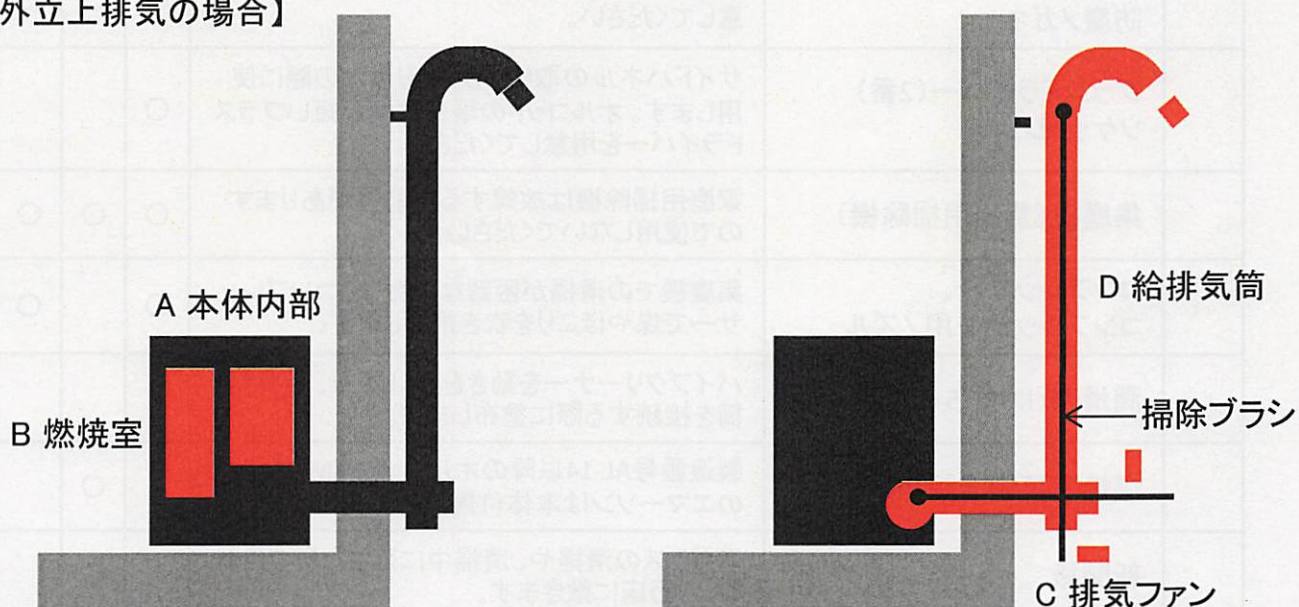
ユーザー様へ通知

春になったらメンテナンスについて、料金とともにユーザー様にお知らせしてください。

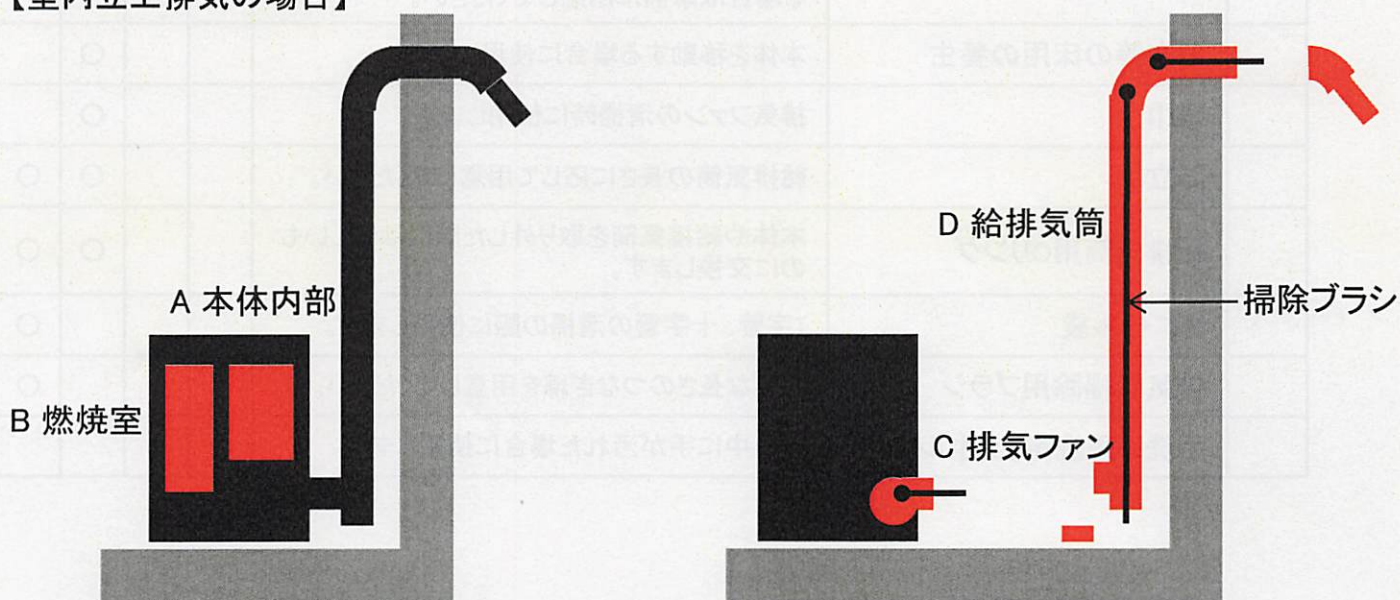
メンテナンス内容

メンテナンスではA 本体内部(4ページ～)、B 燃焼室(6ページ～)、C 排気ファン(11ページ～)、D 給排気筒(12ページ～)の清掃を行ったのち、必要な場合はE 消耗品の交換(14ページ～)を行います。その後、動作確認のF 試運転(16ページ～)を行い、G オフシーズンへの準備(17ページ～)を行ってメンテナンスは終了です。

【屋外立上排気の場合】



【室内立上排気の場合】



メンテナンスに必要なもの

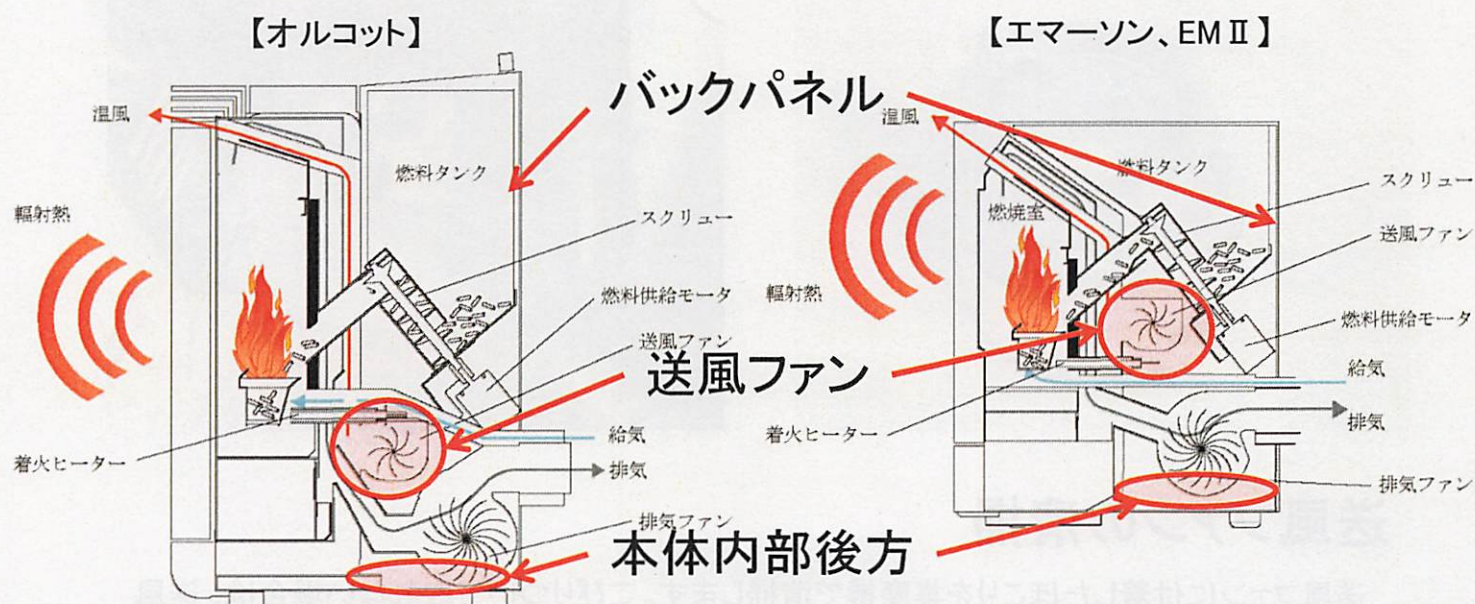
メンテナンスに必要なブラシやヒーター、パッキン、Oリング等の消耗品などは事前に用意してください。必要な消耗品は弊社から取寄せできます。

チェック	品名	備考	使用箇所			
			A	B	C	D
	ゴム手袋、マスク、防塵メガネ	作業中は煤が舞います。安全のため必ず用意してください。	○	○	○	○
	プラスドライバー(2番)ソケットレンチ	サイドパネルの取り外し、取り付けの際に使用します。オルコットの場合は柄が短いプラスドライバーを用意してください。	○			○
	集塵機(業務用掃除機)	家庭用掃除機は故障する可能性がありますので使用しないでください。	○	○	○	○
	コンプレッサー、コンプレッサー用ノズル	集塵機での清掃が困難な場合は、コンプレッサーで煤やほこりを吹き飛ばします。	○		○	○
	潤滑剤(KURE 5-56など)	パイプクリーナーを動きを良くしたり、給排気筒を接続する際に塗布します。				○
	燃焼室裏側掃除用ブラシ	製造番号AL-14以降のオルコット、EM-04以降のエマーソンは本体付属品です。		○		
	新聞紙	窓ガラスの清掃や、清掃中に落ちた灰で汚れないよう床に敷きます。		○		
	パッキン、ガスケット	灰受皿のパッキンや扉のガスケットを交換する場合は事前に用意してください。		○		
	耐火セメント	灰受皿のパッキンや扉のガスケットを交換する場合は事前に用意してください。		○		
	毛布等の床用の養生	本体を移動する場合に使用します。			○	
	雑巾	排気ファンの清掃時に使用します。			○	
	脚立	給排気筒の長さに応じて用意してください。			○	○
	給排気筒用Oリング	本体や給排気筒を取り外した際には新しいものに交換します。			○	○
	ビニール袋	T字管、十字管の清掃の際に使用します。				○
	排気管掃除用ブラシ	必要な長さのつなぎ線を用意してください。				○
	手洗い用洗剤、タオル	作業中に手が汚れた場合に使用します。				

A 本体内部の清掃

概要

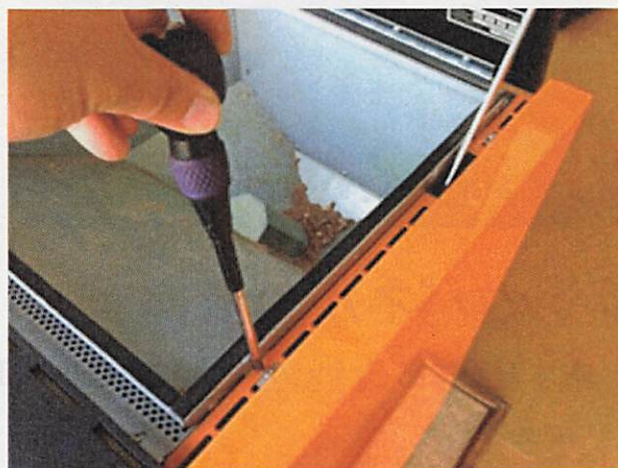
清掃する場所は、本体内部(燃烧室以外の後方)、送風ファン、バックパネルです。ペレット燃料やペレットの粉、ほこり等を集塵機で清掃します。



サイドパネルを取り外す

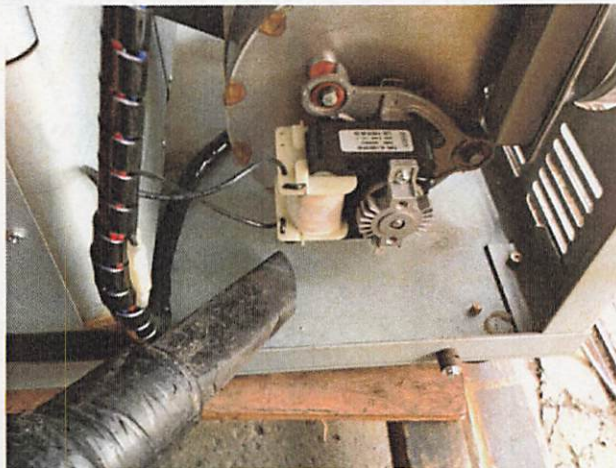
サイドパネルの固定ビス(オルコットは背面、エマーソン、EM II は上面)を外してサイドパネルを取り外します。ビスを燃料タンクや本体内部に落とさないように注意してください。左のサイドパネルを外す際は、先にダンパーを外してください。

サイドパネルとダンパーは全てのメンテナンスが終了した時点で取り付けます。



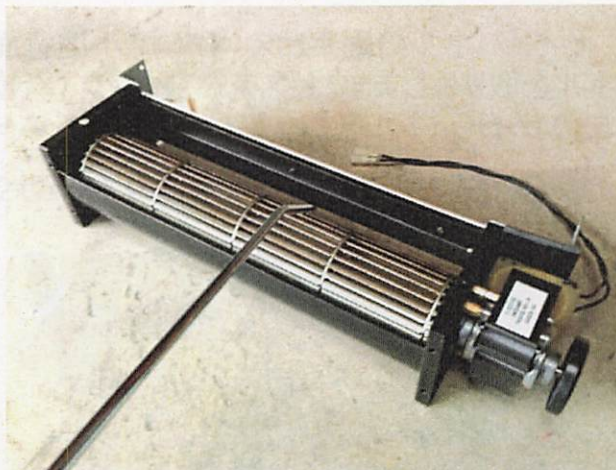
ペレットの粉やほこりの清掃

本体内部に落下したペレット燃料やペレットの粉、排気ファンや基板ボックスなどに付着したほこりを集塵機で清掃します。



送風ファンの清掃

送風ファンに付着したほこりを集塵機で清掃します。こびりついて取れない場合は、送風ファンを取り外し、コンプレッサーで吹き飛ばします。ほこりが舞うので、作業は必ず屋外で行ってください。



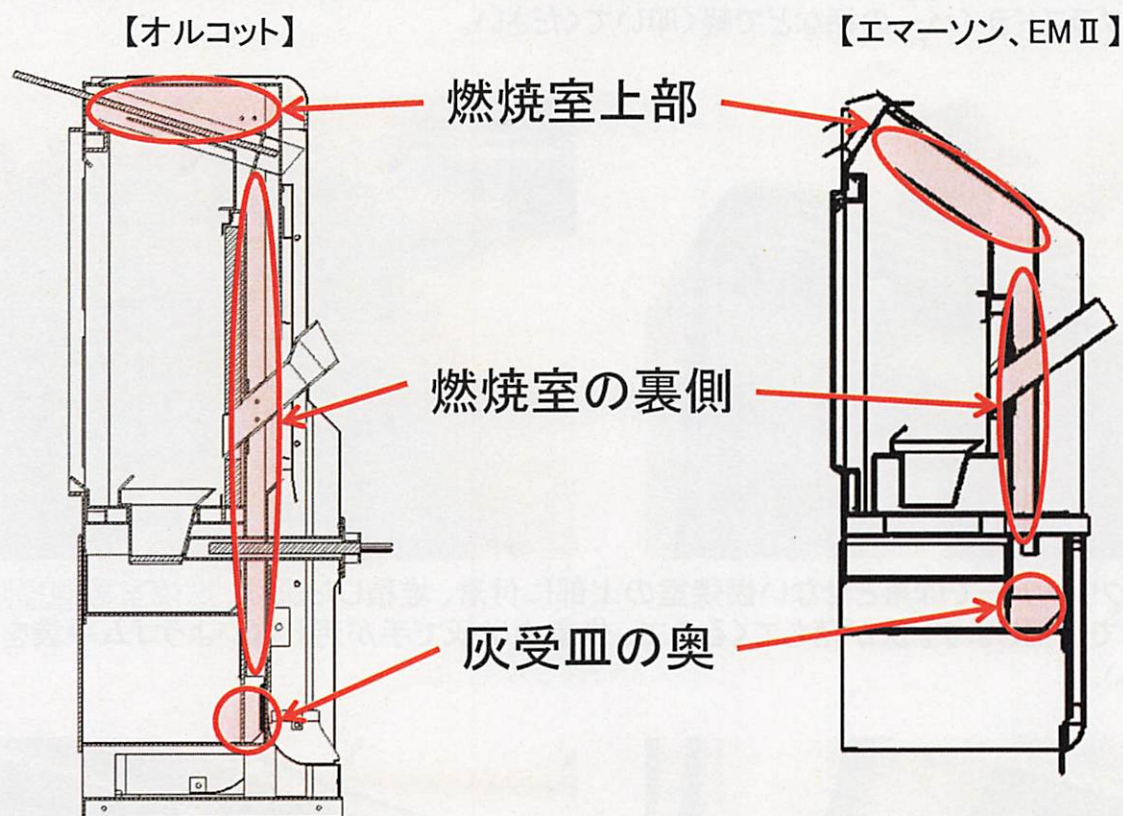
バックパネルの清掃

本体背面にあるバックパネルに付着したほこりを集塵機で清掃します。

B 燃烧室の清掃

概要

燃烧室の上部、燃烧室の裏側、灰受皿の奥の灰を集塵機で清掃します。



掃除モードにする

燃烧室の清掃は扉を開けて行うので、室内に灰が舞います。掃除モードにすると排気ファンのみ最大出力で動作するので、舞い上がった灰が室内に舞うことを抑えます。**本体停止中に運転ボタンを2度押すと掃除モードになります。**ただし、清掃中は給排気筒のトップから灰が出ます。灰で壁が汚れるなど支障がある場合は、掃除モードを止め、集塵機で吸いながら清掃してください。

バッフルプレートを取り外す

燃烧室の上部に取り付けられている2枚のバッフルプレートを取り外します。

燃焼室上部の清掃

パイプクリーナーを引き出し、前後にスライドさせて熱交換パイプの周りに付着した灰を落とします。室内に灰が舞うので、扉は閉めて行ってください。

パイプクリーナーが動きにくかったり、煤や灰がこびりついて動かない場合は、潤滑剤を塗布し、プラスドライバーの柄などで軽く叩いてください。



パイプクリーナーでは落とせない燃焼室の上部に付着、堆積した灰は、燃焼室裏側掃除用ブラシで清掃します。灰が落ちてくるので、作業中は灰で手が汚れないようゴム手袋をしてください。



※パイプクリーナーがない機種の場合、熱交換パイプの清掃はストーブ本体に付属の掃除用ハケで行います。

燃焼室裏側の清掃

燃焼室裏側掃除用ブラシを燃焼室の奥に入れ、燃焼室の裏側を清掃します。灰は灰受皿(大)の奥に落ちてきます。



小型の鏡を入れ、懐中電灯で照らすと、燃焼室の裏側を目視で確認できます。

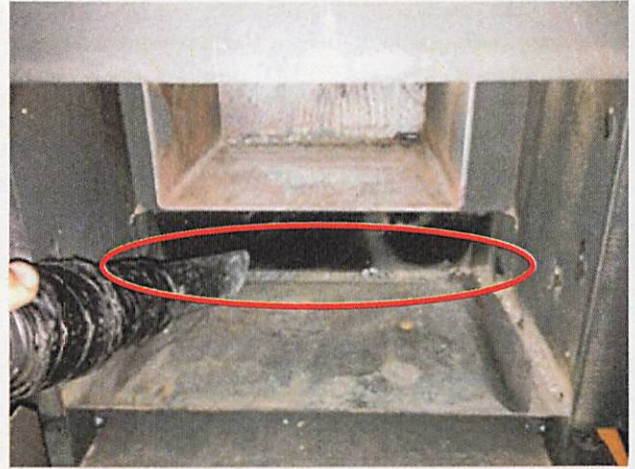


ダンパの動作確認

本体左側にある空気量調整のダンパが正しく動作するか確認します。

灰受皿の奥の清掃

灰受皿(小)、灰受皿(大)の奥に残った灰を集塵機で清掃します。ここに灰が残っていると灰受皿がしっかり閉まらず、空気がうまく流れないため正しく燃焼しません。



灰受皿の灰の処理

灰受皿に残っている灰を集塵機で清掃します。

燃焼ポット、着火ヒータの筒の清掃

燃焼ポット、着火ヒータの筒にたまった灰などを集塵機で清掃します。



クリンカー等で灰が固まっている場合は、掃除用ハケの柄の部分や竹ぐし等で固まった灰を全て落としてください。

窓ガラスの清掃

窓ガラスを清掃します。少し濡らした新聞紙に灰を付けて擦るとよく落ちます。



バッフルプレートを取り付ける

バッフルプレートを取り付けます。バッフルプレートは灰が排気経路に吸い込まれるのを防いだり、熱交換パイプを効率的に暖めるためのものですので、正しく取り付けてください。



掃除モードを止める

掃除モードは30分間動作した後停止します。止めたい場合は背面の主電源を切るか、電源プラグを抜いてください。

C 排気ファンの清掃

本体を給排気筒から取り外す

排気ファンを清掃するため、屋外立上排気の場合はT字管以降の給排気筒を外します。接続部分には外れないようにロックがありますので、後方に引きながら外してください。十字管の場合は、横引き清掃用のふたを外すことで排気ファンと横引き部分の清掃ができます。

室内立上排気の場合はストーブ本体から給排気筒を引き抜きます。オルコットは予め扉の下にあるテラコッタを取り外しておきます。また、エマーソンはコントロールパネルを持たないようにしてください。本体は重いので、引き抜くときは必ず2人以上で行い、本体の下には毛布等で養生し、床を傷つけないよう注意してください。給排気筒のロックを後方に引きながら、本体を引き抜いてください。



ロック

排気ファンの清掃

集塵機のヘッドに、固くしぼった雑巾を巻きます。これを屋外立上排気の場合は給排気筒の横引き部分、室内立上排気の場合は本体背面の排気アダプターに当て、排気ファンに付着した煤を清掃します。

排気ファンの清掃時は、本体前面の扉を開けると、空気の流れがよくなります。



D 給排気筒の清掃

給排気筒の清掃(横引き部分)

排気筒掃除用ブラシや集塵機で給排気筒の横引き部分の灰を清掃します。給排気筒の横引きが長かったり、曲がりが多い場合は、給排気筒を外すか、本体側からコンプレッサーの風で灰を吹き飛ばします。吹き飛ばされた灰が排気トップから吹き出されるので、排気トップにはビニール袋などをかぶせて壁や床などが汚れないようにしてください。



給排気筒の清掃(立ち上げ部分)

T字管、十字管の底のフタを取り外します。堆積した灰が落ちるのでビニール袋などをかぶせてから取り外します。排気筒掃除用ブラシを入れ給排気筒の立ち上げ部分を清掃します。

排気筒掃除用ブラシを回転させるとブラシのヘッドとつなぎ線が外れてしまうので、縦方向にだけ動かして清掃してください。



防鳥トップの清掃

防鳥トップに付着した灰を掃除用ハケなどで掃除します。防鳥トップに灰が付着していると、排気不良の原因になります。

Oリングの確認

給排気筒を接続する前に、給排気筒のメス側にOリングが取り付けられていることを確認してください。Oリングが熱により消耗、変形していたり、メンテナンス中に外れてしまったまま給排気筒を接続すると、隙間から排気が給気されてしまうため不完全燃焼となり危険です。給排気筒を外した場合は、新しいOリングに交換してください。



本体・給排気筒を元に戻す

本体と給排気筒を元の位置に戻します。給排気筒の接続部分に潤滑剤を塗布すると、滑りよく接続することができます。

E 消耗品の交換・補修

灰受皿(大)パッキンの交換

灰受皿(大)の縁や奥に貼りつけられている黒いパッキンが消耗している場合は新しいパッキンに交換してください。パッキンが消耗していると、隙間から空気を吸い込むため正しく燃焼しません。パッキンは合計で1m必要で、必要な長さにカットしてください。

カッターナイフやヘラなどで古いパッキンとコーキングを取り外し、新しいパッキンを耐火セメントで貼り付けます。

パッキンのサイズは、巻末の補足説明を参照してください。



※反対側も



【参考商品】

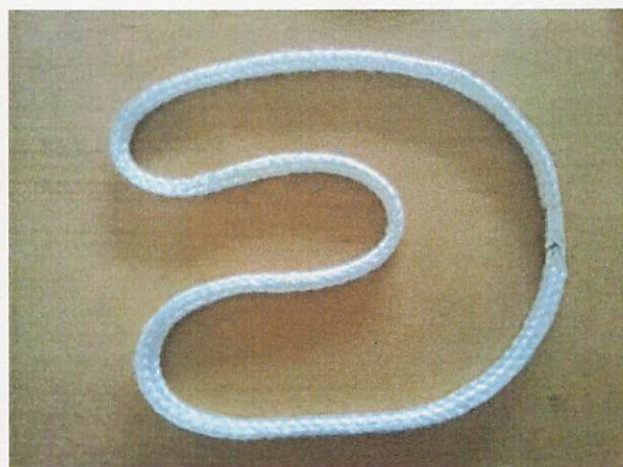
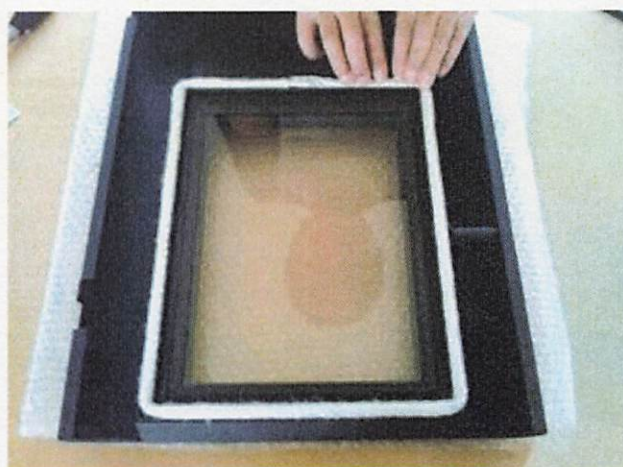
メーカー: RUTLAND

商品名: 耐火セメント
(ガスケット用)

扉ガスケットの交換

扉のガスケットがほつれていたり消耗している場合は新しいガスケットに交換してください。ガスケットが消耗していると、隙間から空気を吸い込むため正しく燃焼しません。ガスケットはオルcottとエマーソン、EM II それぞれ一巻分として、弊社から取寄せ可能です。

古いガスケットを取り外し、新しいガスケットを耐火セメントで取り付けます。



点火ヒータの点検(カートリッジヒータの場合)

点火ヒータは消耗品です。クランプメータ(架線電流計)があれば、点火ヒータ(カートリッジヒータ)の状態を確認できます。電流値が3.0以上あれば正常ですが、3.0未満だと消耗が近いので、新しい点火ヒータに交換してください。



扉の塗装の補修

使用するにつれ、扉が白くなることがあります。使用上問題ありませんが、気になる場合は耐熱塗料で補修してください。塗装するときは窓ガラスなどに塗料が付かないようにマスキングをしてください。また、ムラにならないように気を付けてください。

F 試運転

動作確認

ストーブを起動させ異音などがないか確認してください。

燃焼確認

しばらく燃焼させ、燃焼状態を確認してください。

燃焼室の清掃

試運転が終わったら停止させ、冷めた後に軽く燃焼室の清掃室の清掃を行います。

G オフシーズンへの準備

排気筒キャップの取付

オフシーズン中に虫が入ることを防ぐため、給排気筒のトップに排気筒キャップを取り付けます。防鳥トップが取り付けられている場合は取り外してください。排気筒キャップには水抜き用の穴が開いています。穴を下側にしてください。

※新型防鳥トップの場合は、取り外す必要はありません。



燃料タンクを空にする

燃料タンクの燃料を取り除いてください。



電源プラグを外す

オフシーズン中の落雷による基板などの故障を防ぎます。

H 補足説明

パッキンの取付け位置と寸法について

扉裏側と灰受けに貼るパッキンは、下図のサイズに切ってご使用ください。

ALCOTT



EMERSON・EM II



灰受け皿裏側のパッキンは、縦の部分(写真の青丸の箇所)は、縦に分割したパッキンを左右に貼り付けてください。切断面は内側に向けてください。外側にするとほつれやすくなり、パッキンの消耗が早くなります。

EM II は、「Shimotani」のロゴの部分にパッキンがかからない様に分割して貼り付けます。

接着剤の剥離について

パッキンを貼りかえる際、残ったパッキンと接着剤はカッターナイフ、ヘラ等できれいに剥がしてください。前の接着剤の凹凸が残っているとパッキンが浮いて剥がれる恐れがあります。